

第3回（仮称）平和資料館開設準備懇話会について

1 概要

（仮称）平和資料館の開館に向けて、自主事業や運営体制等の検討を進めるため、学識経験者や他の公立の資料館の関係者等の専門的な見地から意見を聴取する「（仮称）平和資料館開設準備懇話会」を設置した。

本年8月に第3回の会議を開催したため、報告するもの。

2 懇話会の進め方（意見聴取事項）

開催日等	意見聴取事項
（令和元年度） 第1回：8月27日（火）	○（仮称）平和資料館基本計画・実施設計 ○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・プロローグ（導入展示） ○館の自主事業（展示以外）
第2回：1月30日（木）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・戦前の北九州 ・戦争と市民の暮らし ○館の管理・運営（ボランティアの導入）
（令和2年度） 第3回：8月26日（水）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・空襲の記憶 ・運命の昭和20年8月8日・9日 ・戦後の復興 ・エピローグ ・北九州市非核平和都市宣言 ○館の管理・運営（戦時資料の収集）
第4回：未定	○これまでの振り返り

※第4回で終了予定

3 委員名簿

区分	氏名（敬称略・50音順）	所属等
—	後藤 みな子	一般社団法人 北九州文学協会理事長
座長	近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授
—	佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授
—	篠崎 桂子	長崎原爆資料館館長
—	戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
—	凧 恵美	松永文庫 室長代理
副座長	羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
—	吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役

4 今後の取り組み

議会からのご提案等を踏まえつつ、懇話会での議論を深め、運営計画をまとめる。

《資料》

- ・議題1：コンセプト等に基づく展示内容の整理について 別紙1
- ・議題1についての主な意見について 別紙2
- ・議題2：（仮称）平和資料館の管理・運営（戦時資料の収集） 別紙3
- ・議題2についての主な意見について 別紙4

議題 1 : コンセプトに基づく展示内容の整理について

(展示コーナー等)

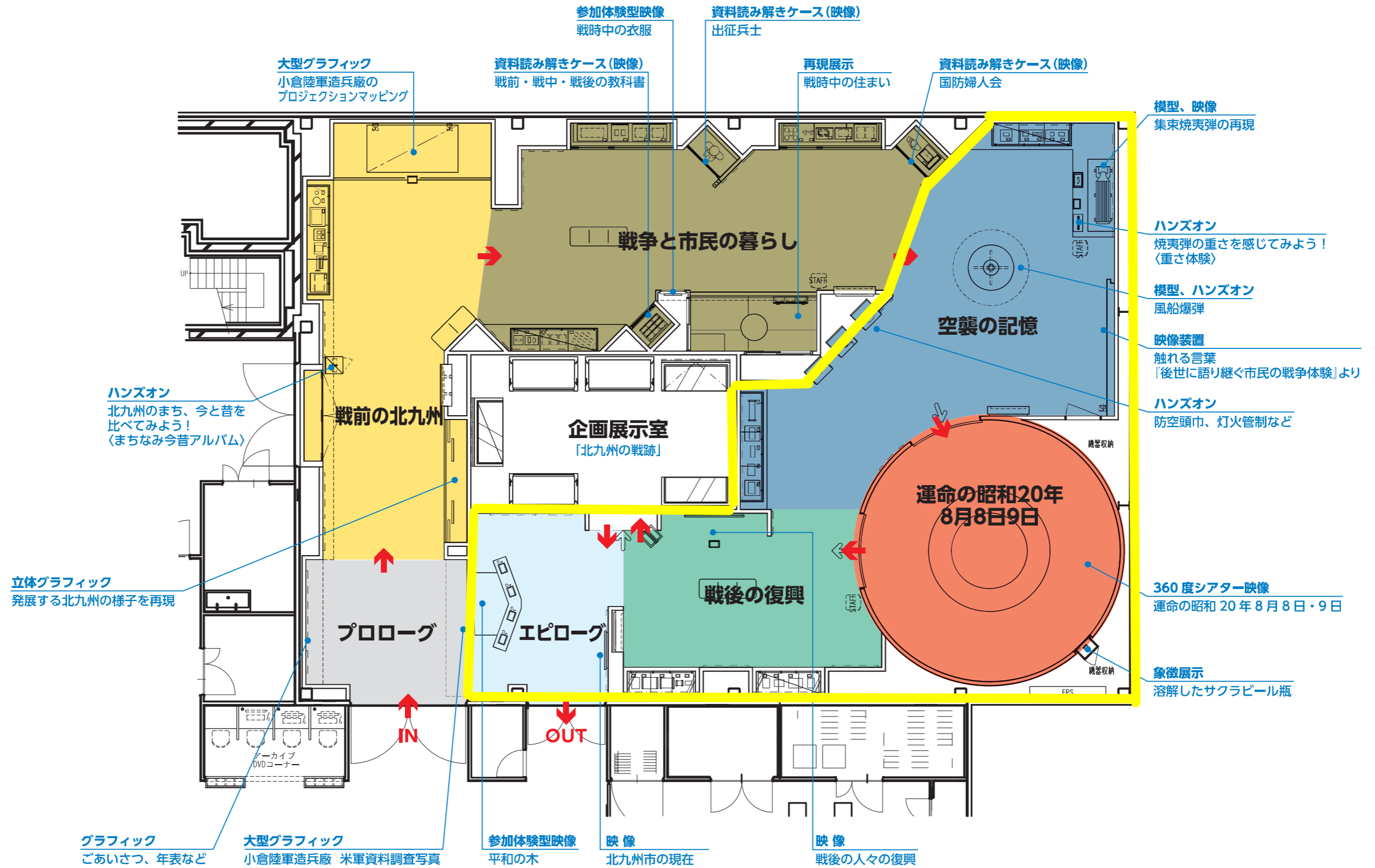
- ・ 空襲の記憶
- ・ 運命の昭和 20 年 8 月 8 日・ 9 日
- ・ 戦後の復興
- ・ エピローグ
- ・ 北九州市非核平和都市宣言

(仮称)平和資料館 展示概要 (展示面積341㎡)

- **展示対象(年代)** : 陸軍造兵廠小倉誘致のきっかけとなった関東大震災が発生した大正12年(1923年)から戦後、造兵廠の跡地で「小倉大博覧会」が開催される等、復興する旧五市が対等合併し、北九州市が誕生した昭和38年(1963年)まで。
- **展示のテーマ** : 「戦争により大きく変わった人々の暮らし・まち」・「北九州の空襲、原子爆弾と小倉」・「戦後の復興」
- **展示のねらい** : 「戦時下の人々の暮らしや気持ち等に思いをはせ、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする」・「戦後の復興を果たし、新しいまちへ生まれかわった歴史を紹介し、まちへの誇りや愛着の心を醸成する」
- **展示の方針** : 「来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示」・「事実に基づいた正確でわかりやすい展示」・「子供たちの目線に立った展示」

展示構成表	区分		展示コーナー		展示概要	
	タイトル	概要	タイトル・ねらい			
	プロローグ(導入展示)	来館者が、改めて、資料館があることの意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高めることができる象徴的な展示を行う。			グラフィック展示	ごあいさつ、年表、小倉陸軍造兵廠位置図(米国国立公文書館資料)等
	戦前の北九州 (大正末期～昭和10年)	北九州地域が日本を代表する工業都市として発展するなかで、陸軍師団や軍需施設が置かれていたことを紹介する。 スクロール式資料検索システム※	【発展する北九州】 交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気があった「まち」の様子や市民の暮らしを知る。		実物資料展示(展示ケース) 立体グラフィック	百貨店絵葉書、新聞記事 等 発展する「まち」の様子を当時の写真や絵葉書を活用した再現展示
			【小倉陸軍造兵廠の誕生】 兵器工場である小倉陸軍造兵廠が設置された経緯、造兵廠と「まち」の関り等を知る。		グラフィック展示 模型+プロジェクションマッピング 実物資料展示(展示ケース)	造兵廠誕生の経緯、「まち」と軍との関りの解説 造兵廠の工場模型に映像を投影したプロジェクションマッピング展示 軍隊ラッパ、飯盒等(陸軍十二師団・小倉陸軍造兵廠関連資料) 等
	戦争と市民の暮らし (昭和10年～昭和20年)	戦時下の銃後を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活などの日常を紹介する。 スクロール式資料検索システム※	【市民の暮らし】 出征する夫や息子との別れや戦時下の統制と節約の中で生きてきた市民の暮らしを知る。		グラフィック展示 実物資料展示(展示ケース) 資料読み解きケース(解説展示)	出征、統制下の暮らしに関する体験談 等 千人針、武運長久の寄せ書き、衣料切符、各種陶磁器 等 兵士や国防婦人会の活動内容を軍服等の実物資料と映像を活用した解説展示
			【戦争と子どもたち】 尋常小学校から国民学校への移行により、大きく変わった子どもたちの生活等を知る。		グラフィック展示 実物資料展示(展示ケース) 資料読み解きケース(解説展示) 参加体験型映像展示 再現展示	戦時下の学校や生活についての解説 雑誌、紙風船、防火双六などの遊び道具、教科書、学徒出陣冊子 等 戦前から戦後の教科書の内容の変化を実物資料と映像を活用した解説展示 戦時中の衣類を擬似的に着ることが出来る参加型体験展示 戦時中の一般家庭の情景の再現展示
	空襲の記憶 (昭和19年～昭和20年)	四大工業地帯のひとつであった北九州地域が空襲の目的となったこと、市街地での被害や市民の戦争体験などを紹介する。 スクロール式資料検索システム※	【北九州と空襲】 発展した都市ゆえに、空襲目標となった北九州の空襲被害の状況等を知る。		グラフィック展示 模型展示 実物資料展示(展示ケース) ハンズオン展示	北九州空襲に関する被災状況、焼夷弾、風船爆弾の概要 風船爆弾、焼夷弾 焼夷弾の破片、爆撃報告書(米国国立公文書館資料) 等 風船爆弾に使われた和紙、焼夷弾の重さ体験
			【空襲と市民の暮らし】 空襲から身を守るための市民の生活の工夫や過酷な体験を知る。		グラフィック展示 ハンズオン展示 触れる言葉(参加体験型展示)	空襲と市民の暮らしについての解説 防空頭巾、灯火管制電球かさ 等 壁面に投影したキーワードに触れると戦争体験談や写真が壁面に浮かび上がる映像展示
			【昭和20年8月9日 小倉・長崎】 長崎に投下された原子爆弾と小倉の関係等を紹介し、長崎での原爆により多くの人が被害にあったことを知る。		グラフィック展示 実物資料展示(展示ケース)	原子爆弾と小倉の関係、原子爆弾についての解説 原爆被災資料(スプーン、瓦、写真等)、小倉市長檄文 等
	運命の昭和20年8月8日・9日	昭和20年8月8日の空襲により、大きな被害を受けた八幡の「まち」、翌日に原子爆弾を搭載した爆撃機が小倉をめがけて北九州上空へと到来し、長崎へ向かったことなど、長崎へ投下された原子爆弾との関係について360°シアターで紹介する。		360度シアター 実物資料展示(埋込型ケース)	360度映像を駆使し、音や振動などの体感システムを導入したシアター展示 空襲によって溶解したサクラビール瓶	
	戦後の復興 (昭和20年～昭和38年)	戦後の混乱期における人々の暮らしや「まち」が復興を果たし、北九州市が誕生したことを紹介する。 スクロール式資料検索システム※	【戦後の暮らし】 戦後の混乱期を生きた人々の様々な思いや労苦、苦難の多かつた暮らしを知る。		グラフィック展示 実物資料展示(展示ケース)	戦後の状況を示すデータ、戦後の暮らしについての解説 傷痍軍人手帳、北九州大水害写真(米国国立公文書館資料)
			【平和へ歩み始めた「まち」】 戦後、戦災復興都市に指定された八幡市などの復興や造兵廠跡地の活用等を通して、北九州の「まち」が平和の願いを込めて復興したことを知る。		グラフィック展示 実物資料展示(展示ケース) 映像モニター	旧五市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)の復興についての解説 平和祈念像(レプリカ)、小倉大博覧会・門司トンネル博・若戸博パンフレット 等 旧五市の復興の歩みを紹介する映像
	企画展示 (北九州の戦跡)	所蔵資料に限定せず、他都市の資料館等からの借り受けた資料を活用する等、様々なテーマで企画展を開催する。		実物資料展示(展示ケース) 等	体当たり勇士、山田弾薬庫、軍艦防波堤 等	
	エピローグ (北九州市の未来のために)	明るい未来を創造するための取り組みを通して、北九州市の「いま」と「これから」を紹介する。			平和の木(参加型体験展示) 映像モニター グラフィック展示	来館者の心の振り返りを記録する参加型体験展示 復興を支えた市民・企業等のPR映像 等 北九州市の未来に向けた取り組み(SDGs・文化・平和事業等)の解説

※各コーナーに資料や写真等の画像検索ができるタッチパネル式情報端末を設置



名称	チェック	日付	設計	備考	図面名称	縮尺	図面番号
(仮称) 平和資料館展示設計業務委託	+				概要版	S=N.S A3	02
実施設計					平面図		